

Title	倒産リスクに関する一考察-オプションモデルを中心に-
Sub Title	
Author	古屋賢志(Furuya, Kenji) 姉川知史
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	2001
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 2001年度経営学 第1714号 可能
Genre	Thesis or Dissertation
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002001-1714">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002001-1714</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

論文要旨

所属ゼミ	姉川 研究会	学籍番号	80028737	氏名	古屋 賢志
(論文題名)					
<p>倒産リスクに関する一考察 —オプションモデルを中心に—</p>					
(内容の要旨)					
<p>1990年以降、日本企業の倒産件数は増加の一途をたどっている。現在の企業経営において倒産に関するリスクを無視することができない状況になった。ひとたび倒産が起ると企業経営にかかわる多くのステークホルダーへ多大な影響が及ぶ。そこで、多くのステークホルダーが簡便かつ低コストで企業の倒産リスク状況をその時々で把握する手法はないかを検討するところから本研究は始まった。</p> <p>倒産リスク推定モデルについては数多くの研究がなされているが、簡便かつ低コストなモデルというのは意外に少ない。そこで、この2つの条件を満たすモデルとして多変量判別分析の代表的なモデルである Altman の Z スコアモデルと株価データをもとに推定するオプションモデルの2モデルに着目し、2モデルの有効性と問題点を指摘し、実務に適用可能なモデルとなりえるかを検証することを目的とした。</p> <p>1995年1月から2001年3月までに倒産した日本企業26社と類似会社26社をペアリングしたものをサンプルとし、両モデルによって倒産リスク計量化したものを比較検証する実証分析を行った。その結果、Z スコアモデルでは不動産業および建設業において誤判別を生む傾向が強く、オプションモデルでは建設業の倒産リスクが低くであることを確認した。</p> <p>しかし、それ以外のサンプルについてはZ スコアモデルとオプションモデルの推移が概ね一致しており、倒産リスク推定結果は両モデルとも有効であることを確認した。</p>					